

今日は、気候変動に関するお話から始めたいと思います。

皆さんはパナマ運河を御存じだと思います。太平洋と大西洋をつなぐこの運河を利用して多くの物資が運ばれています。この運河を通航する船舶の数は、年間一万隻をはるかに超えると言われています。まさに交通の要衝と呼ぶにふさわしいところですよ。

ところが、このパナマ運河において、通航を制限しなければならない事態がこのところたびたび起こっています。昨年は特にひどくて、運河に入れない船舶の数が二百隻を超えたこともありました。その要因として、周辺の降雨量の減少が挙げられています。

なぜ降雨量が関係するのかということですが、これは、パナマ運河の構造を見ると分かりやすいと思います。パナマ運河のあるところは、太平洋側と大西洋側で潮位に差があります。その上、途中には山がちな地形が広がっています。こういうところに運河を通そうとすると、途中で何回か水位を調整することが必要になってきます。そのために取り入れられたのが水路

を区切るという方法でした。区切られた部分に水を出し入れして水位を調整するのでありますが、そのためには大量の水が必要になってきます。この水を、川をせき止めて造った湖から取り入れるようにしたのであります。ところが、気候変動の影響で降雨量が減少し、この水を十分に確保することができなくなってしまいました。その結果、船舶の通航に制限が加えられることになったのであります。

気候変動の影響の一例として取り上げてみた次第であります。

次のテーマに移ります。今度は、お祭りについてお話をしてみたいと思います。

日本には三十万件ものお祭りがあるとされています。その中には、全国的に知られた有名なものばかりでなく、地域でひっそりと続けられてきたものなど、様々なものが含まれています。毎年行われるものからかなりの間を置いて行われるものまで、開催の間隔もバラエティーに富んでいます。

そんな中で、七十二年に一回しか行われないというお祭りがあります。平安時代から絶える

ことなく続いてきているこのお祭りは、これまで十七回行われています。前回行われたのは今から二十年ほど前のことでした。

これだけの間隔があると、前回のことを覚えている人はほとんどいないだろうと思います。今こそ長寿の人もたくさんいますが、かつては人の寿命ははるかに短かったわけでありますから、どうやって次の人たちに伝えていったのかということに大いに興味を引かれました。

しかも、このお祭りは決して小規模なものではありません。一週間ほどをかけて七十五キロもの道のりを往復するというものであります。参加する人数も決して少なくありません。山あいの神社から出発する人たちだけで五百人にも上ります。これだけの人々が移動するわけですから、その段取りだけでも大変なことです。ろうと思います。しかも、宿泊や食事の用意もしなければなりません。まさに地域の力がなければできないことだと思います。

このようなお祭りがこれからも長く長く続いていくことを願いたいと思います。(了)